

発行 医療法人 永仁会

# EH 永仁会だより

ホームページアドレス <http://www.ejinkai-hp.or.jp/>

## 第37号

住所：大崎市古川旭2丁目5-1  
TEL：0229-22-0063

# 永仁会病院設立20周年記念

## ～昭和から平成 そして令和へ～

昭和に産声をあげた前身永野外科医院は、平成の時代に永仁会病院として生まれ変わり20年の歳月が流れました。そして今、令和の時代を迎えようとしています。これからも地域に愛される病院をめざし、職員一丸となって精進してまいります。



### ●開院20周年を迎えて/理事長 宮下 英士



永仁会病院は2019年1月23日で開院20周年を迎えることができました。当院を選んで受診していただいている患者様と当院の運営に携わる職員をはじめ業者の皆様にも深く感謝申し上げます。

さて、永仁会病院はルーツを1959年12月に旧古川東町に開業した永野外科医院に発します。1975年8月に永野外科医院は血液透析部門の仙台北人工腎クリニックを併設しました。1983年2月には永野外科医院と仙台北人工腎クリニックを統合して医療法人永仁会永野病院を開設しました。血液透析患者様の増加などによって永野病院の施設が手狭になり、開設約16年後の1999年1月23日に現在の地に名称を永仁会病院と改めて新築移転しております。

永仁会病院では、慢性腎不全患者様の治療、消化器や乳腺の疾患および糖尿病の診断と治療を中心に医療活動を行なっています。

また当初から病気に詳しい栄養士（臨床栄養士）の育成に力を入れ、2002年2月に東北・北海道地区では初めての栄養サポートチーム（NST）を立ち上げました。その成果のひとつとして、日常診療で多忙を極める中、全国規模の学術集会で数々の研究発表を重ね、近年では病院のスタッフが学術集会の大会長をも務めました。またNST認定教育施設としても数々の実習生をも受け入れています。

更に、病院組織の充実を図るため2003年11月に日本医療機能評価機構の審査を受け、宮城県内の病院で10番目に認定病院となりました。認定病院を継続するためには5年に一度認定更新のための審査があります。この度2018年10月に4回目の審査を受けて認定病院を継続しております。

当院は、これからもこれまでも増して、患者様が安心して受診でき、職員が働きやすく、取引業者の皆様にも良好な関係を維持できるよう努力してまいりますので今後ともご指導ご鞭撻下さいませようお願い申し上げます。

## ●20年を振り返って/院長 鈴木 祥郎



私は1997年永野病院に外科部長として入職、2006年より院長を拝命し、在職22年となりました。私自身、至らないことばかりで、皆様にご迷惑をおかけしたことも多々あったかと思いますが、これまで継続してこられたのは、

皆様のご理解、ご協力によるものと心より感謝申し上げます。

さて、この20年間の最大のトピックスは、やはり東日本大震災だと思えます。病院建物への被害は比較的軽微でしたが、民間病院のためか行政の支援は乏しく、ライフラインが絶たれた中、職員一人一人が一致団結して奮闘したことは今でも鮮明に覚えています。何より優先すべきは入院患者様と透析患者様の安全と考え、外来診療は休診とせざるを得ませんでした。停電は1週間に及び、ガソリン、自家発電に必要な重油の調達にも難渋し、食材も不足していました。治療の継続だけでなく、職員による生産者から直接の買出し、限られた設備による調理、人力による配膳などにより、入院患者様、付き添いの方々、職員への食事提供も続けることができました。職員皆、自ら被災したにもかかわらず結束し、病院で寝食を共にしながら、患者様と病院を守った姿には敬服いたしました。

さらに、日常業務においては宮下理事長の下、トップダウン的にNST活動、QC活動、感染対策、医療安全対策などを重要項目として捉え、JSPEN、JANIS等各種団体に参加し、全国レベルでの活動報告を継続してきました。近年はボトムアップ的活動に発展し、日本医療機能評価機構の認定病院として評価され、連続して認定更新されております。一重に皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

また、今後の病院について考えると、開院当初より、医師は約60%、職員は約90%が入れ替わっており、世代交代はさらに進んでいくことでしょう。先代の永野睦夫前理事長、現宮下英士理事長の目指す地域に根差した病院となるためには、要求されているものをいかに提供できるかを模索、準備し、未来永劫、地域住民の方々に永仁会病院ならできる、永仁会病院にしかできないと思われるような医療、接遇、環境設備を提供し続けることが重要であると考えます。職員のスキルアップを含め、働きやすい環境を整えることが個人の自覚と成長に寄与し、病院の進化につながるものと考えます。

さあ、この病院の進化という夢に向かって進んで参りましょう。

病院の環境設備に寄与していただいている鹿島建物の方々にも、この場を借りて感謝申し上げます。

## 20周年に寄せて

永仁会病院発足の理念は「速く」「無駄なく」「快適に」「心をこめて」です。急性期病院として、苦しむ患者さんに迅速に対応し、理解と納得のもとに限られた保険資源で効率的かつ誠意をもって治療を行い、プライバシーとアメニティーを重視した全国でも珍しい個室化の病院としてスタートしました。当初、大崎市は平日夜間輪番制を行っており、当院も概ね1週間に1回担当していました。その際、患者が落ち着いた夜中にいつも医師・看護師と一緒に出前の寿司や宅配ピザを食べたりして、チーム医療を醸成していたことが懐かしく思い出されます。

医事課 齋藤英輝

永仁会病院が開設したのは、1999年1月23日。今でも思い出すのは、お祝いとして、7~8cmの大きな紅白の大福を職員全員が頂いたことです。その後も毎年、大福を頂き、“ああ今年もその時期になったんだな”と開院当時が懐かしく思い出されました。前理事長の永野睦夫先生が地域に根ざした病院として永野外科医院を開設し、現理事長の宮下英士先生が意思を引き継がれ、今まさに地域に根ざした病院として発展を遂げてきました。今後は私達職員も一丸となりさらなる繁栄を目指し精進してまいります。

看護師 坂本和子

20年前。職員総出で荷物の搬入、片づけを行い、当時入院中の患者様は永野病院の救急車で永仁会病院に搬送し、新病院にお出迎えするという大きな引越しを経験しました。今日までの20年間、理事長先生、院長先生はじめスタッフ全員で同じ目標に向かい作り上げてきた病院を、今後一丸となって50年先、100年先の未来につなげていけるよう皆さんで盛り上げていきましょう。

看護師 安倍恵子

# 永仁会病院の歩み



トレードマークの 三角屋根



1959年12月(S34年)  
永野外科医院 開設

1975年8月(S50年)  
医療法人永仁会 発足  
仙台北人工腎クリニック 開設

1983年2月(S58年)  
永仁会 永野病院開設



1999年1月(H11年)

現在地に永仁会病院として新設移転。

旧永野病院は永仁会クリニックとして外来診療継続



2002年2月(H14年)  
日本栄養療法推進協議会NST稼働施設として認定。  
NST(栄養サポートチーム)の活動開始  
(東北・北海道地区で初)



2003年11月(H15年)

日本医療機能評価機構受審しVer4.0認定 ★

2005年9月(H17年)

永仁会クリニックの診療機能を永仁会病院へ統合

2007年2月(H19年)

日本静脈経腸栄養学会NST専門療士認定教育施設に認定

棚は倒れてぐちゃぐちゃに…



他施設からの透析患者も受け入れ、フル稼働で動きました

2011年3月11日(H23年)

東日本大震災発生

2009年3月(H21年)

★★ 日本医療機能評価機構Ver5.0認定更新

2009年8月(H21年)

前 腎センター長 石崎 允先生 ご逝去

2009年11月(H21年)

前 内視鏡医 渋谷 諭先生 ご逝去

ダンディでハートが熱い先生でした

2007年4月(H19年)

給食管理を病院直営に戻す

食事は命の源！  
おいしい食事をお届けします！



クリスマスの行事食



2013年7月(H25年)

日本医療マネジメント学会第7回宮城支部学術集会で  
大会長を務める(鈴木院長)

腕がいいと評判の先生でした



内視鏡による検査や治療が常時可能になりました

2013年11月(H25年)

日本医療機能評価機構3rdG:Ver1.0認定更新 ★★★

2014年4月(H26年)

消化器内科が充実

2015年7月(H27年)

第3回日本腎不全栄養研究大会で大会長を務める(瀬戸栄養科長)

2014年10月(H26年)

前 泌尿器科医師 安達 國昭先生 ご逝去

H2017年3月(H29年)

腎臓病と栄養・代謝・食事フォーラム2018で大会長を務める(松永腎センター長)

患者想いのやさしい先生でした

2017年5月(H29年)

電子カルテ導入

受付がスムーズになり会計の待ち時間が少なくなりました



2018年4月(H30年)

矯正歯科開設

2017年(H29年)7月

宮下理事長が長年の警察医業務で『警察協力章』を受章



検案業務を30年近くつとめています

2018年10月(H30年)

日本医療機能評価機構3rdG:Ver2.0認定更新認定更新 ★★★★★

# これからの 永仁会病院の取り組み



## 大腸がんの治療が腹腔鏡下手術で 出来るようになりました！

### ●大腸がんってどんな病気？

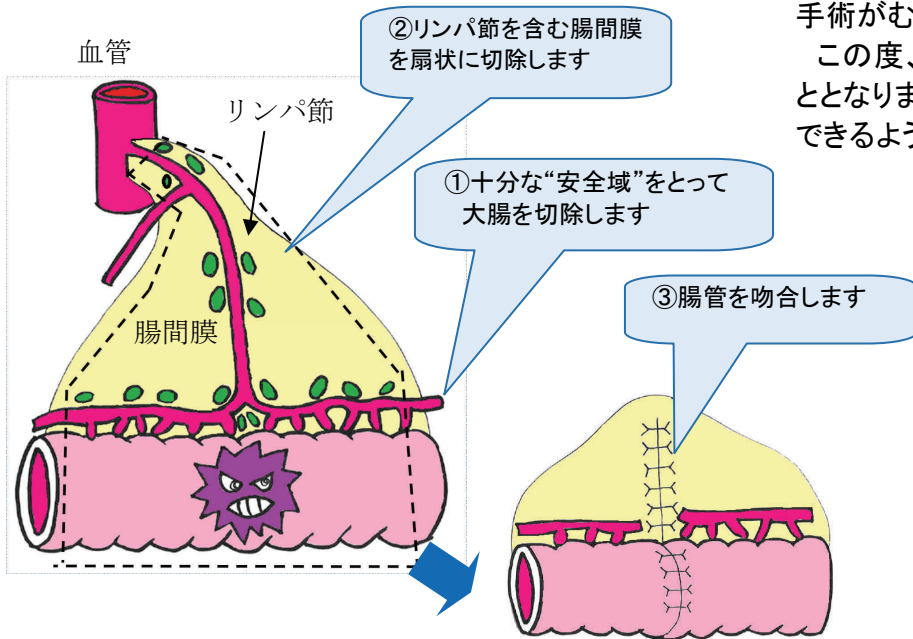
大腸がんは、大腸の粘膜から発生する悪性腫瘍です。はじめは粘膜に存在しますが徐々に大きく深くなり、進行すると腸管壁の外に浸潤したり、ほかの臓器に転移したりします。はじめは症状はありませんが、進行すると腫瘍が腸管をふさいで腸閉塞をきたしたり、腫瘍から出血して血便が出る場合があります。

### ●どんな治療

#### 法があるの？

大腸がんの治療法は、その進行期(ステージ)などにより異なります。腫瘍が粘膜やその近くにとどまっている早期のものであれば内視鏡的治療(おなかの皮膚を切らずに、カメラをおしりから入れて行う)が適応となりますが、それ以上に深い場合、リンパ節にも転移している可能性があるため、手術を行いリンパ節も含めて腸管

#### 大腸がんの手術の基本

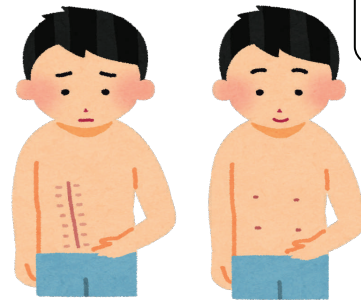


大腸がんの手術は従来おなかを開いて行う開腹手術が行われてきましたが、1991年にアメリカで、1993年に日本で初めて腹腔鏡下手術が報告されました。それ以来技術が発展し、現在では安全性と治療効果において開腹手術と差はありません。腹腔鏡手術は傷が小さく済むため、術後の痛みが比較的少ない、手術の痕が目立ちにくい、といったメリットがあります。一方でこれまでの腹部手術をされたことがある場合や、腫瘍の大きさや部位などによって腹腔鏡手術がむずかしい場合があります。

この度、当院でも腹腔鏡手術の設備を導入することとなりました。今後とも患者様に良質な医療を提供できるよう努めてまいります。

外科部長 向田和明

#### 手術跡の違い



傷口が小さく、術後の痛みが比較的少ないです。

開腹手術の痕

腹腔鏡手術の痕

### 病院の実績

(2019年3月度)	月計	平均
外来患者数	4,697	123.2 (外来稼働日)
入院患者数	1,317	42.5 (1日あたり)
血液透析症例数	1,660	63.8 (透析稼働日)
入院平均在院日数		7.7
手術件数(合計)	51	

#### ●編集後記●

永仁会病院は現地にて開院してから20年を迎えました。さらに当院の前身である永野外科医院が昭和34年に設立されてからは60年になります。時代の流れとともに町の様子や、病院の診療機能、そして働く職員の顔ぶれも変わりましたが、「地域に愛される病院」への想いは、現在の職員にも変わらず受け継がれております。

事務長 鈴木